

道徳の時間学習指導案

指導者 溝上 孝弘

- 1 学 年 第6学年2組 35名
- 2 日 時 平成20年 11月 7日 (金) 第3校時 6年2組教室
- 3 主 題 名 家族の愛 4-(5)

4 本時のねらい

父親の手話と涙で語られる両親の深い愛情に気付いた太郎の心情を考えることを通して、家族を敬愛し、家族の幸せを求めて絆を大切にしようとする心情を育てる。

- 5 資 料 名 ぼくの名前呼んで (光村図書)

6 主題設定の理由

- 人は家族の中で生まれ、育つ。様々な事情によって多様な家庭環境の形態があるが、誰もが支え合い、助け合うつながりをもつ人と共に生活をしている。そのつながりこそが家族であり、生きる基盤である。そこで、自分への家族の愛情を感じながら、愛情をうけるだけでなく、その家族のために何ができるだろうと考えることが大切になってくる。

この時期の児童は、自分の価値判断に固執しがちである。そして、自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするのに伴い、責任感も強くなるし、批判力もついてくる。そのことによって家族の愛情を素直に受け止められない場合も出てくる。あるいは、愛情を求めるものの、家族の幸せのために自分が何ができるかを考える機会も少ないと考えられる。

そこで、改めて家族が相互に信頼関係と深い絆で結ばれていることについて考えを深めていき、家族の幸せのために自分は何ができるかを考えて、家庭での自分の役割を自覚し、家族のために積極的に家庭生活にかかわっていききたいという心の芽生えを感じ取らせていきたい。

- 本学級の子どもたちの家庭環境は様々である。形は違っても家族の愛情をしっかりと受けながら、家庭環境の中で日々の生活を送っている。時にはけんかをしてさみしそうな顔をして学校にくる姿や、家族と楽しく過ごした時間を生き生きと語ってくれたりする姿から家族と共に過ごしている思いの一端を伺うことができる。

アンケートで子どもたちに「家族に愛されていると感じる時はどんな時ですか」と問うたところ、「看病してくれた時」「困った時、助けてくれた時」「だきしめられた時」等、目に見える何かをしてもらったことを書いた子が59%であった。また「共に悩んでくれた。」「がんばっている時応援してくれた。」「怒ってくれた時」等、精神的な支えを感じている児童も76%と多くいた。いずれにしても様々な形で家族の愛を感じていることが分かる。逆に「家族の幸せのために自分ができることは何ですか。」と問うと「家の手伝い」と答えた子が59%と一番多く、他にも「心配をかけない」「勉強をする」といった家族の一員として具体的な役割を果たすことが大切であると考えている児童が多くことが分かる。また、「明るく笑顔でいること。」「精一杯生きる。」「おたがいが協力すること。」と精神的な支えや繋がりを書いている子も34%おり、積極的に家族の一員として家族のために支えていきたいという思いが膨らみつつある子も多くいることがわかる。しかし、「自分は家族に愛されていない。」と答えた児童も3名いた。様々な背景もあるが、その理由として「役に立てていないから。」というものがあつた。自分の存在そのものが家族の支え、幸せにつながっているはずであるが、そこまでの思いに至ることができていないことが伺える。このような実態から、子どもたちに改めて家族の愛の深さを実感させ、その中にいる自分が精一杯生きていることを

含めて何らかの形で家族の支えになっているという実感をもたせていきたい。そこから自分がより家族の一員として家族を幸せにしていきたいという気持ちを高めていきたいと考える。

- 本資料は、主人公の太郎と、聴覚障害と言語障害のある両親が共に家族として支えあって懸命に生きていこうとする姿が描かれている。太郎が学校で「自分は一度も両親から名前を呼ばれたことがない。」という事実をつきつけられ、その切ない思いを父親にぶつける。しかし、父の涙ながらの愛にあふれた手話から、両親の深い愛に改めて気づいていくという内容である。

指導にあたっては、中心発問を効果的にする基本発問として、「父親にしがみつき、声をあげて泣いている太郎はどんな気持ちだろう。」と問い、どうしようもないことは分かっているが、悔しさや悲しさをこらえきれずに訴える太郎の心情に共感させていく。その際、「どうして名前を呼んで欲しいの。」と補助発問をし、両親との絆を断たれた思いになり、両親の愛を求め、苦悩している太郎の心情に迫っていく。そして中心発問として「父親の涙ながらの手話を、まばたきもせずに見つめながら、太郎はどんな気持ちになっていったでしょう。」と問う。その際「ぼくは家族のためにも、最高の生き方をしたい。」等のように家族の愛を受けとめ、自分も家族を支えていきたいという太郎の気持ちに共感する言葉が出てきた時、「最高の生き方とは、どんな生き方だろう。」「両親の願いとは何なのだろう。」と父親の手話の中に出てきた言葉をもとに中心発問を効果的にする補助発問をなげかけ、友だちの意見を受け入れ、自分の考えをもてるように間をとり、しっかりと考える時間をつくり、よりよい考えを伝え合い、共に高まり合っていく姿をめざす。そして、家族を敬愛し、家族の幸せを求めて絆を大切にしようとする心情を育てるというねらいに迫っていく。

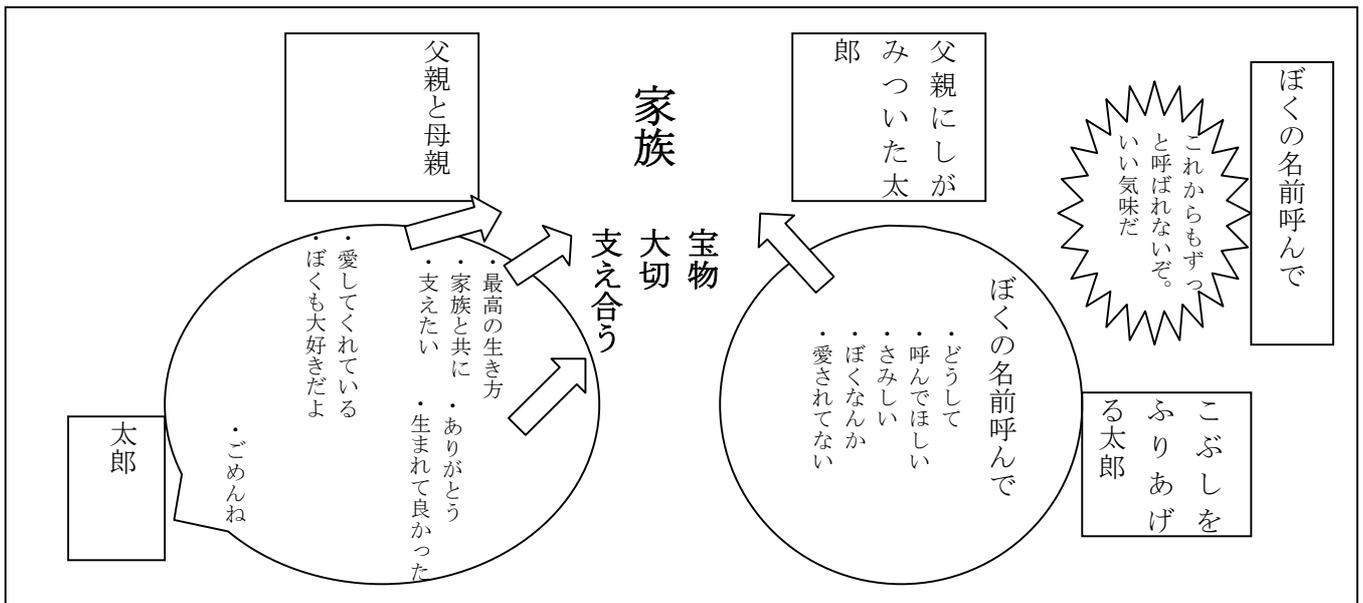
展開後段において改めて家族の良さ、家族の愛について話し合った後、終末で家族からのメッセージを読む。そのメッセージには家族の方から自分が家族にとって大切な一員であり、支えてくれている場面を書いていただく。その家族の思いを読み、自分も家族を支えているのだという思いに改めて触れさせていきたい。

7 準備物 場面絵、プロジェクター、手紙

8 活動の流れ

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
導 入	1 「名前」について話し合う。	家族に自分はどう呼ばれていますか。	○「名前」を呼ばれることが当たり前のことであることを改めて意識させ、資料のなかみにつなげていく。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>2 資料「ぼくの名前呼んで」を聞いて話し合う。 ○名前を呼んで欲しい太郎のやりきれない気持ちを考える。</p> <p>○父親の手話を見つめ、両親の深い愛に気付く太郎の心情を考える。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">父親にしがみつき、声をあげて泣いている太郎はどんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは自分の名前を呼んでもらっている。 ・ぼくも運動会の時に、みんなと同じように名前を呼んで欲しかった。 ・名前を呼ばれるという当たり前のことがどうしてぼくにはしてもらえないの。 ・さびしい。つらい。 ・名前も呼ばれないのなら、生まれてこなければよかった。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">父親の涙ながらの手話を、まばたきもせずに見つめながら、太郎はどんな気持ちになっていったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父さん、母さんもつらかったんだね。 ・悪いことをした。ごめんね。 ・名前を呼ばれないことなんて、何でもないことだったよ。 ・名前を呼ばれないけど、ぼくは大切にされていたんだね。 ・ぼくは、父さんと母さんの子に生まれてきてよかった。 ・父さんも母さんもぼくのことを愛してくれているんだね。 ・ぼくは家族のためにも、最高の生き方をしたい。 ・ぼくが父さん、母さんの支えになるよ。 	<p>○どうしようもないことは分かっているが、悔しさや悲しさをこらえきれずに訴える太郎の心情に気付くかせる。</p> <p>○「どうして名前を呼んで欲しいの」と補助発問をし、両親との絆を断ち切られた思いになっている太郎の心情を考える。</p> <p>○ワークシートに考えを書き、交流する。</p> <p>○後悔、深い愛情への気付き、感謝、最高の生き方と子どもの意見を明確に整理して板書していく。</p> <p>○「最高の生き方とは」「両親の願いとは」等手話の中に出てきた言葉をもとに太郎が気付いた深い愛情を引き出すための効果的な補助発問を用意しておく。</p>
	<p>3 自分の家族について改めて考える。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分にとって「家族」ってどんなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのないもの。 ・大切な宝物。 ・助け合える大切な存在。 ・何でも相談できる。何でも言い合える。 ・安心できる関係。 	<p>○そう思った具体的な場面を問い、合わせて「家族っていいな」と思った経験も出し合う。</p> <p>○家族の愛をうけ、支えられている自分を改めて実感し、終末につなげていく。</p>
<p style="text-align: center;">終末</p>	<p>4 家族からのメッセージを読む。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おうちの人からメッセージが届いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたの笑顔が家族を支えてくれているのです。 ・あなたのいっしょうけんめいな姿に私たちも励まされるのです。 	<p>○家族の温かい言葉から、自分も家族を支えていることを改めて実感する。</p> <p>○価値を温め、余韻をもって終わる。</p>



実践と考察

1 考察（発問の工夫）

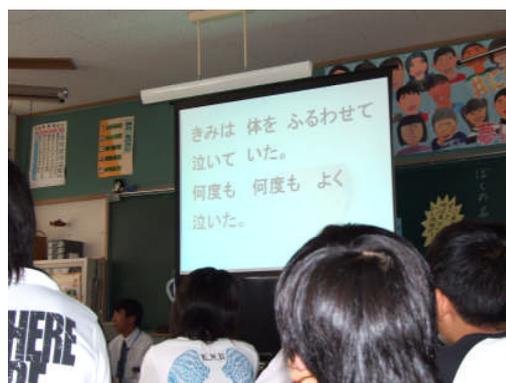
中心発問を効果的にする基本発問において「父親にしがみつき、声をあげて泣いている太郎はどんな気持ちだろう。」と問うた。子どもたちからは「一度でいいから父と母に名前を呼ばれたい気持ちでいっぱい。」「父も母もしゃべられないからさみしい。」「両親の気持ちは分かるけど、友だちは呼んでもらっているのに、自分は呼ばれないからさみしい。」「なんで自分は呼ばれないんだ。」「家の中で自分ひとりのような気持ち。」と発言が続き、どうしようもないことは分かっている、悔しさや寂しさをこらえきれない太郎の気持ちに共感していた。この太郎の寂しさや、悲しさについて、より深く考えさせていくねらいで「呼ばれないのは分かっているよね。今までもそうだった。それでもどうして悲しいの。」と補助発問を投げかけた。すると「頭では分かっている。でも他の人は運動会の時、声を出して応援してもらった。将来のことも考えた時、自分がくじけそうになった時、一人で抱え込む形になることもあるのでは。それを考えると無性に悲しくなる。」と悲しみの奥深さに共感する発言や「今まで意識したことがなかった事をこんな形で言われて、胸に針がささったような悲しさ。」とそのつらさを表現する発言が続き、太郎のつらく悲しいやりきれない心情に迫ることができた。しかし、両親との絆を断ち切られた深い思いをより引き出すために「名前なら友だちや他の人にもいつも呼ばれているよ。どうして両親から呼ばれないと悲しいの。」と家族だからこそ呼んでほしかった思いに迫れるような補助発問を投げかけると、よりねらいに迫ることができたと考える。

そして、中心発問において「父親の涙ながらの手話を、まばたきもせずに見つめながら、太郎はどんな気持ちになっていったでしょう。」と問うた。子どもたちからは「この両親から生まれてよかった。」



【思いを積極的に発表する子どもたち】

「両親が思っている気持ちが伝わってきた。両親の願いが分かってその願いをかなえていきたいと思った。」と深い愛情への気付きが続けて出てきた。そこで、より太郎に対する思いの深さを話し合わせていくねらいで「両親の願いとはどんな願いなの。」と願いの中味を考えさせる補助発問をした。「本当はわが子の声を聞きたくて聞きたくてしかたなかった。」という両親の愛情と「心を明るく持つ。強く持つ子になってほしい。」「わたしたちから生まれた子どもとして最高の生き方をしてほしい。」と将来に対する願いが出てきた。これを聞いた子どもたちから続いて「この両親の思いが自分の名前を百回呼んでもらった以上に自分の中の宝物。」と両親と太郎との深い絆を感じることができた発言が出てきた。さらに「普通の家族だったら、自分の子どもの声を必死で聞きたかったという思いなんてなかなか感じることができない。そこまで太郎の事を考えてくれることが今伝わった。だからこの家族に生まれてきてよかったと思っている。」「手話でここまで話すことができるのは、両親と太郎の心が通じ合っているから。だから太郎は改めてそのことが分かってこの家族に生まれてきてよかったと思っている。」と友だちの意見を受け入れながら高まりあっていくことができた。



【文字で提示した父親の手話を見つめる児童】

予定ではワークシートに思いを書き、じっくりと自分の考えをまとめて発言させる予定であったが、本時は時間配分等の都合でワークシート無しで展開したが、発問の後、はじめは深く感動した思いをすぐに表現できない子が多くいた。いくつかの発表の後、活発に高まり合っていく意見交流になっていったが、この場では、やはりしっかりと間をとって考えさせる意味でもワークシートが効果的であったと考える。

そして、展開後段において改めて家族の良さ、家族の愛について話し合った後、終末で家族からのメッセージを読んだ。自分が家族を支えている姿や家族にとってかけがえのない存在であるという言葉が書かれたメッセージを読んで、子どもたちは深く感動していた。これらの姿から、家族を敬愛し、家族の幸せを求めて絆を大切にしようとするねらいに迫ることができたと考える。

2 板書



3. 改善指導案

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
導入	1 「名前」について話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 家族に自分はどう呼ばれていますか。 </div>	○「名前」を呼ばれることが当たり前であることを改めて意識させ、資料のなかみにつなげていく。
展開	2 資料「ぼくの名前呼んで」を聞いて話し合う。 ○名前を呼んで欲しい太郎のやりきれない気持ちを考える。 ○父親の手話を見つめ、両親の深い愛に気付く太郎の心情を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 父親にしがみつき、声をあげて泣いている太郎はどんな気持ちだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは自分の名前を呼んでもらっている。 ・ぼくも運動会の時に、みんなと同じように名前を呼んで欲しかった。 ・名前を呼ばれるという当たり前のことがどうしてぼくにはしてもらえないの。 ・さびしい。つらい。 ・名前も呼ばれないのなら、生まれてこなければよかった。 ・愛する家族だからこそ名前を呼んでほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 父親の涙ながらの手話を、まばたきもせずに見つめながら、太郎はどんな気持ちになっていったでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・父さん、母さんもつらかったんだね。 ・悪いことをした。ごめんね。 ・名前を呼ばれないことなんて、何でもないことだったよ。 ・名前を呼ばれないけど、ぼくは大切にされていたんだね。 ・ぼくは、父さんと母さんの子に生まれてきてよかった。 ・父さんも母さんもぼくのことを愛してくれているんだね。 ・ぼくは家族のためにも、最高の生き方をしたい。 ・ぼくが父さん、母さんの支えになるよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分にとって「家族」ってどんなものだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのないもの。 ・大切な宝物。 ・助け合える大切な存在。 ・何でも相談できる。何でも言い合える。 ・安心できる関係。 	○どうしようもないことは分かっているが、悔しさや悲しさをこらえきれずに訴える太郎の心情に気付かせる。 ○「 <u>家族以外には名前をよばれているよ。</u> 」と補助発問をし、 <u>両親との絆を断ち切られた思いになっている太郎の心情</u> を考える。 ○ <u>ワークシートに思いを書き、交流する。</u> ○後悔、深い愛情への気付き、感謝、最高の生き方と子どもの意見を明確に整理して板書していく。 ○「最高の生き方とは」「両親の願いとは」等手話の中に出てきた言葉をもとに太郎が気付いた深い愛情を引き出すための効果的な補助発問を用意しておく。
終末	4 家族からのメッセージを読む。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> おうちの人からメッセージが届いています。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたの笑顔が家族を支えているのです。 ・あなたのいっしょうけんめいな姿に私たちも励まされるのです。 	○家族の温かい言葉から、自分も家族を支えていることを改めて実感する。 ○価値を温め、余韻をもって終わる。

